08/Nov.2012

０８：５４　ホテルにて朝食。EuropeanStyle breakfast.。

１０：５０　ツクツクにてルアンパバーンのバスターミナルへ
ウドムサイへのバスチケットを購入。バスの発車時刻は１２：００予定。
約５時間余の行程である。

１２：００　バス発車

１３：４５　トイレ休憩。

１４：２０　食事休憩。

１７：４０　ウドムサイのバスターミナルへ到着。

１７：４５　明日から２日間、宿泊をお世話になる samkang 村（ウドムサイより南東方向６０㎞）の A 氏がピックアップトラックで出迎え。一旦、ゲストハウスに入りチェックイン。LITTHAVIXAY GUEST HOUSE 60,000K、６００円。

１９：００　ウドムサイの町なかに住む A 氏の長男宅へ招かれ、交流し、夕食をともにする。

２１：００　A 氏のピックアップトラックにてゲストハウスに到着。

←europianbreakfast

←Oudoumxay50,000K とある。500 円である。
バスターミナルのチケット売り場。
体をカバーしてください。裸の胸はダメ。ビキニトップはダメと掲示あり。

↑待合室の風景

↑こう言った公共施設のトイレ事情を見ましょう。ここには仏教施設がある。料金は普通 2,000K（２０円）の有料。便器は和式形式、水がためられたバケツから柄杓で洗い流す。
この事例は優れた例。小さなまちのバスストップの食事どころでは無料だが、こんな美しいものではない。洗濯場と同室であったり、ドアなどない場合がある。あっても満足にしまらない。洗い流す方法は同じ。気にすべきことではない。

↑バスターミナル全景

↑右の箱はポスト
左のポスターは観光キャンペーン visit laos 2012

↑おばさんが何やら売っている。右のような生産者の写真入りで品質を保証している。薬草らしい。筒状のものは？と聞くと骨を損傷した時、骨の代わりに使うとのこと。不思議なことを言うものだ。

↑ターミナルを取り囲むように、ツクツクが客待ちをする。
その向こうの建物はショップ。
下の写真のように食べるもの始め、旅に必要なものなら何でも揃う。ちょっとした食事や飲み物を提供する店も。子供が広場で遊んでいる。人なつっこい。時間待ちには退屈しない。

←屋根に荷物を積んで、いよいよ出発である。時刻表はあって、無きが如し。勿論、座席指定など無い。満席になり、積み残しが無いと思えば、時間前でも出発すると聞く。早めにターミナルへ出向き、時間待ちすることを推奨する。マイクロバス程度の韓国車。運転手の他に添乗員が乗り込み、チケットのチェックや荷物の積み下ろし、委託を受けた荷や時には手紙などの書類を運ぶ。運転手などの収入になるようだ。所要時間は運転手の走りっぷりによる。これでいいのだ。悠々たる生活振りである。ウドムサイ行きは一日一本。

↑こう言った、村の生活の風景を見ながら、バスはけたたましい警笛でこどもたちや横切る家畜を追い払いながらひたすら走る。舗装道路であるが穴ぼこあり。ものともせずに走る。時速６～７０キロ程度と思われる。右下の画像、橋の下には何か施設があるようだ。

←約 2 時間後、バスは停車。トイレ休憩だと言う。トイレは無い。看板の向こうのブッシュに隠れて野外。女性も。看板には HONG KHAM CAVE TOURIST SITE とある。洞窟（鍾乳洞）があり、外国人ツーリストが立ち寄るのかもしれない。こんな山中にもこどもの姿が。

↓約 30 分後、その地方の中心の町に到着。この町で食事を採る。ラオス開発銀行、その隣にはバイク販売店。そしてバイク修理屋。バイク関連店舗は生活の命綱。銀行は月～金８：３０～１５：３０open とある。

←この店で食事を採る→
いろんな物資を扱っている。右は木炭。左は丁度、客が生きた野生動物（大きなネズミ）を買って帰かえるところ。

↑ガラスのショーケース越しに昆虫の料理が見える。熱い麺が無難。香草の野菜を入れて食する。食事処の前にはバスが出発を待つ。油断しないこと。おいてけぼりをくらわされる。その羽目にあったが、乗客のラオス人が気に着いて少し先でバスは停車。車内の笑いの中で乗り込む。Sorry。

←道路交通の分岐点である。我々は突き当たりを左方向に向かう。右は周辺の状況。ゲストハウスもあるようだ。

↑バスは再び、同じ調子でひたすら走る。車窓には村の生活を垣間見る。暑さを避けて村人たちがくつろぐ様子や焼き畑農業の様子が見えるのが印象的である。ひたすらバスは走る。

←動画

ラオスのバス移動をお楽しみください。けたたましい警笛。途中で大きな荷物を持った村人たちを乗せて山中をひた走ります。停留所があるわけではありません。村々で日長待っていた村人が手を挙げて止めるのです。コメなどの穀物の縁故物流の役割を負います。ミュージックサービスで音楽がけたたましく鳴ります。外国人ツーリストが乗客の半数を占めます。

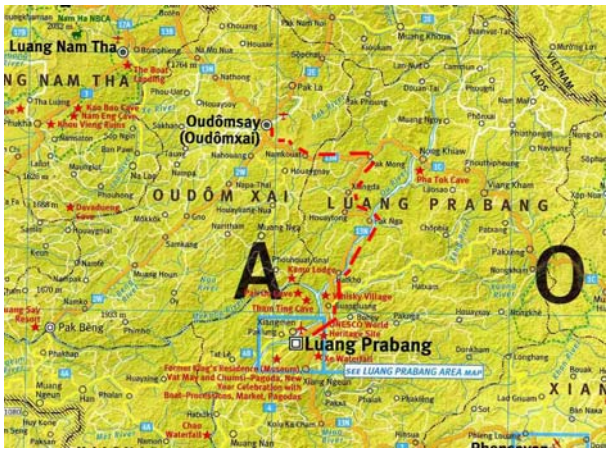
←ウドムサイに到着です→
日は既に傾いて午後５時 40 分。６時間のバス移動でした。ショップがありツクツクが客待ちです。荷物が降ろされます。陽は既に傾いている。

←samkang village の知人がピックアップトラックで家族揃って出迎えてくれる。ゲストハウスでチェックインの後、ウドムサイの町に住む長男の歓迎を受けることとなる。長男は妻の家に住んでいる。よくあることのようだ。

↑家族そろって、夕食を囲む歓迎である。

←ラオス式ちゃぶ台に料理が。
タケノコのスープ。肉料理、野菜のいためもの、蒸したもちコメを手で。

←お宅の中を案内。
水洗い場、調理室、タケノコノ乾燥など



←ルアンパバーンからウドムサイへのバス経路（赤色破線）